

6 年

いろいろな文体で書く

●指導目標

毎日の生活の中から興味や関心をもったこと，心が動いたことを，いろいろな表現の仕方を書く。

- さまざまな文体に興味をもって，すすんで書こうとする。（書くこと）

●教材について

本教材『いろいろな文体で書く』は「言葉のポケット」（補充教材・発展教材）として位置づけられているが、『創作ノート』（6上 P16）と関連させることで，より効果的に指導できると考えた。

「創作ノート」は，毎日の生活の中で感じたり考えたりしたことを表現する際に，いろいろな文章表現の仕方があることを体験させていくためのアイデアノートである。

「創作ノート」を書いていく過程でいろいろな文体があることを知り，それらに興味をもつようになれば，書く行為自体が一層楽しくなっていくであろう。

本教材では，文種の違いによる文体の変化（「日記ふう」「俳句ふう」「説明文ふう」「昔話ふう」）がひと目でわかるように示されている。また，文種の違いだけでなく，書き手の視点の違いによる文体の変化（「せみのせりふ」「記録映画ふう」「独り言」）も示されている。

このように整理されたさまざまな文体にふれることは，子供の書く意欲を高めることにもつながっていくにちがいない。

●学習指導計画(全7時間)

展開・時		学 習 活 動	評価と方法
一 次	第1時	○『創作ノート』を読み，学習する事柄をつかむ。 ○「創作ノート」に，どのように書いたらよいか考える。	【関心】「創作ノート」に興味をもち，書き方について考えている。（態度）
	第2時	○選んできた題材をどのような表現方法で書くかを発表する。 ○「創作ノート」に書く。 ○グループ内で書いた「創作ノート」を交換し合い，友達がどのように書いているかを知る。	【関心】すすんで「創作ノート」を作ろうとしている。（態度） 【書く】関心をもったことなどを書いている。（ノート）
	第3・4時	○グループ（文種）別にどのような発信の仕方をするか発表する。 ○各自作品を仕上げ，発表するための準備をする。	【言語】送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書いている。（発表作品）
	第5時	○グループごとに，作品を発表したり，聞いたりする。また，作品についての感想を述べたりもする。 ○『創作ノート』についてまとめる。	【関心】作品を一生懸命仕上げ，その作品を意欲的に発表しようとしている。（態度）
二 次	第6（本時）	○『いろいろな文体で書く』を読み，同じ話題でもいろいろな書き方があることを知る。	【書く】文章にはさまざまな文体があることに気づいている。（観察）
	・7時（本時）	○学校生活の中でのできごとを話題にして，自分で書きたい文体を選んで実際に書いてみる。	【書く】いろいろな文体のよさを理解し，実際に書く活動に生かそうとしている。（作文）

● 本時の展開 (本時 6 / 7)

目 標

- ・ 同じ話題でもいろいろな書き方があって、それぞれの表現の特徴やよさについて話し合うことができる。

● 展開例

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価 ・ 支 援
1 同じ話題でもいろいろな書き方があって、それを知ること。 ○ それぞれの例文 (P111) に共通する場面を読み取る。 ○ 文種の違いによる文体の変化に気づく。 「日記ふう」 「俳句ふう」 「説明文ふう」 「昔話ふう」 ○ 視点の違いによる文体の変化に気づく。 「せみのせりふ」 「記録映画ふう」 「独り言」	1 『創作ノート』の学習と関連させて、いろいろな種類の文章や視点を変えた文章を書くための文体があることに気づかせる。 ○ それぞれの例文を表現の仕方に注意して音読し、その特徴を確かめる。 常体「～だ。」「～である。」 敬体「～ます。」「～です。」 一人称「ぼく」「わたし」 三人称「子供」「せみ」 文末「～そうな。」 過去形「～しました。」「～た。」 現在形「～いく。」「～なる。」 説明「あれは～ません。」 体言止め「～一人。」 など ○ 同じ話題（場面）が視点を変えて（せみになりきって・カメラの目で追って・自分の気持ちを話すように）書かれていることをわからせる。	【書く】文章にはさまざまな文体があることに気づいている。（観察） 【読む】文種や視点に違いがあっても、表現の仕方が異なるだけで場面や意味は変わらないことに気づいている。（観察） 【読む】文種の違い（特徴）を確かめて読んでいる。（観察） 【読む】書き手の視点によって、文体が大きく変わること気づいている。（観察）
2 それぞれの表現の特徴やよさを話し合う。 ○ それぞれの例文を「創作ノート」に書き留める。	2 文体が違えば、表現の効果や読んだときの印象がさまざまに異なることに気づかせる。 ○ ネーミングを意識して「創作ノート」に例文を視写させる。	【態度】例文の表現の特徴やよさについて意欲的に発表しようとしている。（観察） 【態度】興味や関心をもって「創作ノート」に例文を書こうとしている。（観察）

●本時の展開 (本時 7 / 7)

目 標

- ・同じ話題を各自が選んだ文体で書かせることによって、文体が違えば表現の効果や読んだときの印象が異なることを実感できる。

●展開例

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価 ・ 支 援
1 学校生活の中のできごとを話題にして書かれた文章（二百字程度）を自分が選んだ文体で書きかえる。 ○文種の違いによる文体の変化を意識する。 「日記ふう」 「俳句ふう」 「説明文ふう」 「昔話ふう」 ○視点の違いによる文体の変化を意識する。 「せみのせりふ」 「記録映画ふう」 「独り言」	1 「運動会」「プール開き」「学習発表会」など、学級の全員が体験したできごとを話題に選ぶことで、各自が書き換えた文章を比べやすくする。 ○一つのできごとの中からどのような場面を切り取って文章化するか決めさせる。 ○文種の特徴（常体・敬体，一人称・三人称，文末，過去形・現在形，説明，体言止めなど）に注意して書かせる。 ○同じできごとを視点を变えて（せみになりきって・カメラの目で追うように・自分の気持ちを話し出す感じで）書かせる。	【書く】いろいろな文体のよさを理解し，実際の書く活動に生かしている。（作文） 【書く】もとの文章の意味や場面を変えないようにして書きかえている。（作文） 【書く】何になりきって書くか，どこから見て書くかを意識している。（作文）
2 書き換えた文章を発表し合い，いろいろな文体で書くことのよさや楽しさを話し合う。 ○書き換えた文章をグループ内で交換して読んだり全体で発表したりする。	2 文体が違えば，表現の効果や読んだときの印象が異なることを実感させる。 ○書き換えた文章は，発表が終わった後で，「創作ノート」に書き留めさせる。	【話す】書き換えた文章の工夫や印象について話し合っている。（話し合い）

●参考資料

学校生活の中のできごとを話題にした作文例

たとえば，運動会を話題にした次の二百字作文を「もとの文章」にして，いろいろな文体で書き換えさせてみる。

いよいよ小学校最後の
百メートル走が始まる。
ぼくはゆっくりスター
トラインに並んだ。とな
りの友達ともだちの息づかいが聞
こえてくる。みんな黙っ
てゴールを見つめている。
「位置について。よい。
ドン！」
ピストルが鳴った。
みんな、一斉に飛び出
した。地面を蹴ける音が響ひび
く。目の前がゆがんで見
える。思いつき足に力
を入れる。一人、二人と
追い越す。ゴールが揺れ
ながら近づいてくる。
「苦しい。あと少しだ。」
最後の力を振りしぼっ
て、ゴールイン！

視点の位置を変えて書く方法

運動会の作文例は、走っているぼくが自分の目で見たことを書いている。しかし、これと同じ場面をスタート付近にいる人が書いたり、反対に、ゴール付近にいる人が書いたりすると表現の仕方やそれを読んだときの印象が全く違ったものになる。

スタート付近にいる人が書く場合は、走る前の選手たちの様子はくわしく書けるが、選手たちがだんだん遠ざかっていくので、走りだしたあとやゴール付近の選手たちの様子は書けない。これとは逆に、ゴール付近にいる人は、ゴールした後や近づいてくる選手たちの様子はくわしく書けるが、走る前や走った直後の選手たちの様子は離れているので書けない。

要するに、いっしょに走りながら自分の目で見たことを書いたり、スタートやゴール付近にいて外から見たことを書いたりするのでは書き方が全く違ってくる。

ちなみに、この場面を上空から鳥の目で見えたり、地面から虫の目で見えたりしても、見え方が違うので、書き方は変わる。

表現の工夫や効果につなげるためには、どこから見て書くか、という視点の位置も意識させたい。

【視点の位置】



— 人の目で —

自分の目で見る
他人の目で見る

近くから見る
遠くから見る

— 鳥の目で —

上から見る

— 虫の目で —

下から見る